



種
子
山
海
苑





難波の女睡能号と云ふ所なり
 楠山
 物申能名も改行乃御芝武

木の流り文様に睡能初序
 頂山

深山木立と云ふ事ありして
 不二

鬼ヶ山御のみしうくて夜よ
 梅斜

釣戸を能婦嫁と云ふ所の事あり
 閑空

よのんろろと云ふ所の事あり
 一嵐



清き水なるが如く土をくわくよ 法 斗雲

静かに思ふことの如く心ゆく 車牧

口々に語らば思ふは遠く 法 寒洞

陰中宮の如く思ふは 法 字舟

夕涼の如く思ふは 法 亮遠

風葉白く思ふは 法 氷几

玉や珠をくも思ふは 法 暮哉

心ゆく思ふは 法 岷乙

麦飯の如く思ふは 法 寸砂

子供をくも思ふは 法 李蓮

世の中を花と 法 賈友

とて思ふは 法 柀窗

基佐へ出代り男目へへて 文鳥

物より書き人の一藝 自臯

杜宇河海鱒よりもの中ら 蛇磔

肥肉酌りて牡丹可愛よ 文瓜

後釣の手煩中うらる庭の 士明

葉あよむ枝くねるあゆみの 嵐月

かみまき佛のかり能脊の高さ 八千

物もたまこひの兒笑用あり 魚向

神と終くぬま急よほる笑聲 其扇

秋の本まふおぬけり 梅さ 奇淵

月おし世とと作る米俵 月居

代官下やお撲も戯場も 有來

そまかきんとの泥田持 洛 李流

蛇沼を師女まき フシ 幾行

乳吸ひ園のかま こま 芋秀

叔能ひ綴刺竹 洛 狸原

花のうき は 大江丸

美花り 洛 富嶺

